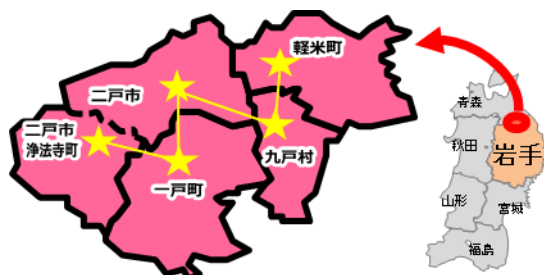


「カシオペア地域活性化フォーラム」を開催しました

東北財務局盛岡財務事務所では、地域連携・地方創生支援の取組みとして、岩手県最北部に位置する二戸市、軽米町、一戸町、九戸村の4市町村が、市町村の枠組みを越えて広域連携を推進することができるよう地域のメインプレイヤー（地方公共団体・商工団体・地域金融機関）が一堂に会する「カシオペア地域活性化フォーラム」を以下のとおり開催致しました。



(注) カシオペア
旧浄法寺町（現二戸市）を含めた5市町村を
結ぶとカシオペア座に似ていることから平成3
年に命名された。5つの星が手をつなぎ輝くよ
うにとの願いが込められている。

1. 開催日時

平成 28 年 3 月 24 日（木）14:00～16:50

2. 会場

二戸地区合同庁舎 1階大会議室

3. 参加機関（順不同）

二戸市、軽米町、一戸町、九戸村、二戸地域振興センター（岩手県）
カシオペア青年会議所、二戸市商工会、軽米町商工会、一戸町商工会、九戸村商工会
(株)岩手銀行、(株)東北銀行、(株)北日本銀行、盛岡信用金庫
(株)日本政策投資銀行、(株)日本政策金融公庫、(株)商工組合中央金庫
東北財務局、盛岡財務事務所

4. 結果概要

(1) 開会挨拶

東北財務局から、今般の取組みは、中長期的な視点から、カシオペア青年会議所を中心に次世代を担う青年層を主体として継続的に議論する場として提供していく。これによりネットワークが構築され「カシオペア地域」の活性化に結び付くことを期待するとの挨拶が行われた。

(2) 地方版総合戦略から見たカシオペア地域の現状説明

盛岡財務事務所から、カシオペア地域4市町村の地方版総合戦略から見た地域の共通課題、地域経済分析システム（RESAS）活用によるカシオペア地域の産業構造の特徴（農林業・食料品製造業の強み）や交流人口の特徴、人口の増減推計などの現状分析を踏まえ、広域連携の重要性を説明した。

(3) 地域のメインプレイヤー等からの説明（主な内容）

【地方公共団体】

- ・人口減少により財源不足となる懸念があることから、PPP/PFIの手法や地域ファンドの活用で地域活性化を図っていききたい。（二戸市）
- ・鶏糞バイオマスなど再生可能エネルギー事業を地域に根ざす事業の1つにしたい。地域住民の交流施設が少ないので設置に向けて検討中。（軽米町）
- ・どの産業も従業員確保が課題。子育て支援に加え、今後は地元定住促進に向けた子供の教育にも取り組む。また医師不足の対策や介護職員を確保するための施策にも注力。（一戸町）
- ・地域住民への助成金等の給付に九戸村共通商品券を活用し、地元での消費促進につなげているほか、地域活性化のため、道の駅「おりつめ」にある産直施設の機能充実を検討中。（九戸村）
- ・交流人口拡大に向けた体験事業の促進や、若者の地元定着を促す企業訪問ツアーの実施、全国シェアの高い鶏肉を中心とした産業振興策に取り組む。（岩手県）

【商工団体】

- ・フードフェスティバルなどのイベント開催や青少年の育成に取り組んでいる。カシオペア地域を活性化させるため、各機関と連携を図っていききたい。（カシオペア青年会議所）
- ・カシオペア青年会議所主催のフードフェスティバルへの参加や、街コン開催などを通じて地域活性化に取り組んでいる。（二戸市商工会）
- ・地域金融機関の協賛も受け、年2回、地元企業の産業まつりを開催しているほか、にぎわいづくりのため街コンなど各種イベントを開催し地域活性化に取り組んでいる。（一戸町商工会）
- ・産業まつりを継続して開催しているほか、平成26年からビアガーデンを実施するなど、地域活性化に取り組んでいる。（九戸村商工会）

【地域金融機関】

- ・地方創生に向けた地方公共団体との連携協定締結を進めている。地域の宝を活かした独自の地方創生を進めていくことが必要。（岩手銀行）
- ・よろず支援拠点と積極的に連携し、中小企業の経営相談を通じ、企業が抱える課題のソリューションの提案を行っている。（東北銀行）
- ・地域経済活性化のため、農業分野では「6次産業化支援ファンド」を設立し、新たな事業機会の創出に取り組んでいる。（北日本銀行）
- ・東北地区や首都圏でのビジネスマッチングによる企業の販路拡大支援のほか、交流人口の拡大に向け、他の信用金庫と連携し相互で団体旅行の招致活動を行っている。（盛岡信用金庫）

【政府系金融機関】

- ・カシオペア地域では農業振興と創業支援に積極的に取り組む必要がある。これは公庫の得意分野であり、是非、地域活性化に貢献したい。（日本政策金融公庫）
- ・産業の柱の農林業および、食品加工業に関する地域内でのサプライチェーン構築が今後の課題。また、カシオペア地域内の公共施設の相互利用や、核となる資源に集中して投資していくという考えが必要。（日本政策投資銀行）

・従業員確保が悩みの企業と、就きたい仕事がない若者のミスマッチを解消するための取組みは、若者が地元で根付くために重要。プロイラー産業のシェアが高いので、こうした核となる産業にスポットを当てる取組みが必要。 (商工中金)

(4) 意見交換

【主な意見】

- ・カシオペア地域内で連携を図り効果的な取組みに繋げることが重要。限られた財源の中で行政施設の整備にも選択と集中が必要であり、今後はPPP/PFIの手法が有用と考えており、その際の金融機関や建設業などとの連携方法を含め、次回協議としてはどうか。
- ・岩手が誇れる「林業」に注目し、カシオペア地域で豊富な特産林産物（くわ茶、きのこ、くるみ、うるし等）に焦点を当て、地域ブランド化を図っていく方策を協議してはどうか。
- ・地域が誇れる自然にスポットを当て、SNSでの情報発信などの取組みにより交流人口拡大につなげる方策を協議してはどうか。
- ・農業は所得が少なく専業では食べていけない状況。町の特産品である雑穀も質は認められているが差別化できていないため、どう付加価値をつけていくかが課題。

(参加機関の総意により以下のとおり決定)

- ・地域資源の有効活用、PPP/PFIの活用に向けた官民連携など、様々なニーズがあることに鑑み、まずは、ネットワーク強化の観点で、参加機関のメーリングリストを整備し、日常的に全機関で協議できる体制を構築。
- ・次回協議事項は、メーリングリストを活用し、今後、全機関で協議の上、決定。
- ・次回の開催時期を28年9月とする。

(5) 閉会挨拶

カシオペア青年会議所から、団体や地域の垣根を越えた有意義な集まりとなった。カシオペア青年会議所が地域活性化のため、地域の受け皿となって活動していくので、各機関には引き続き連携をお願いするとともに、今後も活発な議論を期待するとの挨拶が行われた。

